



第 8 5 号

発行日

2017年3月1日

発行

茅ヶ崎市立小和田公民館

茅ヶ崎市美住町6番20号

(TEL 0467-85-8755)

(FAX 0467-85-8788)

mail:kou_kowada@city.

chigasaki.kanagawa.jp



おもしろ空間 起震車体験



日本の年越し 餅つき大会



こわだ音楽祭 ハーモニカ演奏



日本の年越し しめ縄づくり

◎内 容

- ★ 辻堂駅100年の歴史と誕生秘話～辻堂駅誕生の歴史的考察と開設100年事業の紹介
- ★ 辻堂駅開設100周年 祝賀記念イベント
- ★ 夏休み子ども電子工作教室～モーターで回り続けるジャイロコマを作ろう！
- ★ 親子で楽しむ木工教室～キーボックスを作ろう
- ★ 親子で考古学入門
- ★ 歴史散策 横浜三塔物語～キング・クイーン・ジャックを訪ねて
- ★ 公民館のぞきみ隊 「オカリナ ミッキー」
- ★ 公運審から発信
- ★ 職員紹介、編集後記

辻堂駅100年の歴史と誕生秘話

～「辻堂駅誕生の歴史的考察」と「開設100周年事業の紹介」～

日 時： 平成28年6月25日（土） 13:30～15:30

場 所： 小和田公民館講義室

講 師： 永井 洋一氏（辻堂駅開設100周年事業実行委員会 本部長）

参加者： 66名

I. 「請願駅」として設置された Tsujidou Railway Station

この記念碑は、大正五年十二月一日辻堂駅開設を記念しその歴史的意義を後世に伝えるため、辻堂駅停車場設置期成同盟が建立した。

辻堂駅の開設は全国でも類のない地元請願駅で駅舎用地と建設資金を地元有志が提供し、当時の鉄道院総裁に強力に設置運動を展開した結果実現した。—以下略—

（「辻堂駅開設記念碑の由来」）より



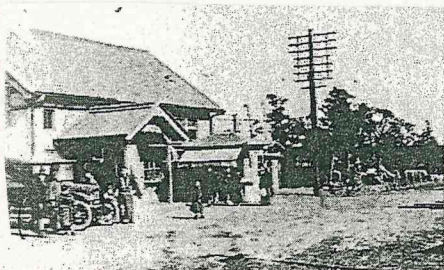
藤沢警察署辻堂駅前交番前

1. 年表《辻堂駅開業まで》

- ・明治5（1872）年 新橋～横浜間29km鉄道開業
- ・明治20（1887）年 横浜～国府津間が開通（辻堂付近では旧東海道側700mに線路が敷設）
- ・大正2年3月15日 鉄道信号所開設
- ・大正3年3月26日 辻堂停車場設置期成同盟会が発足、同年10月29日設置請願書提出
- ・大正4年5月3日 鉄道院総裁から停車場設置についての示達があった。
予算の都合で土地を提供するように。
- ・大正5年12月1日 辻堂駅開業

2. 辻堂駅開設の背景

開設当時の辻堂駅（大正5年）



「20世紀の藤沢」94.3

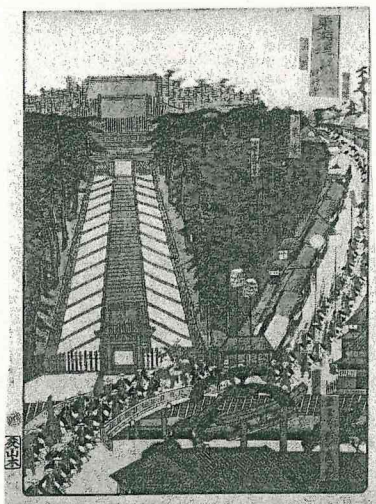
辻堂駅開設の背景として、この地域が東海道線の沿線に位置していたこと、海軍辻堂演習場があったことなどが挙げられている。東海道線が国府津まで延長されたころ、辻堂付近の駅は藤沢と平塚だけであった。藤沢駅は物流の拠点で、東京方面に出荷される甘薯・野菜・魚介類は藤沢まで運んだ。その後、茅ヶ崎駅が設置されたが藤沢～茅ヶ崎間が7.5kmと長いため、辻堂の住民にとってはどちらも遠く、不便を強いられていた。明治17年に海軍辻堂演習場で訓練が始まり、明治の末ごろから演習場に来る兵員や物資が日増しに増加し、この地域の出荷量も増えた。

Ⅱ. 「門前町」・「宿場町」 藤沢

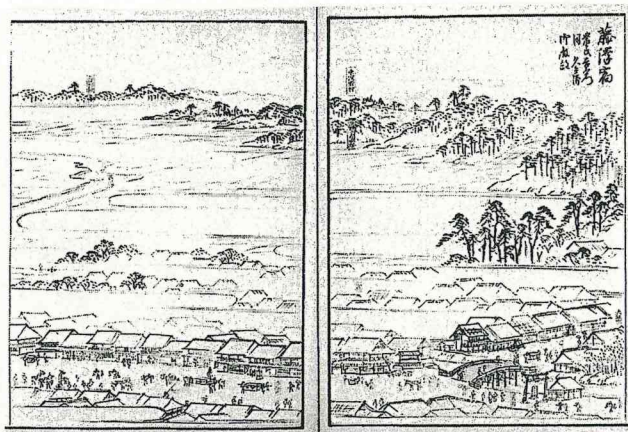
〈関連略年表〉

寿永元（1182）年	頼朝の祈願により、文覚が弁財天女を江の島に勧請、頼朝は江の島に鳥居を奉納する
建保四（1216）年	江の島と対岸片瀬との間の海底が隆起、徒歩で渡れるようになる
弘安五（1282）年	一遍、鎌倉入りを拒まれ、片瀬へ入り踊り念仏を催す
正中二（1325）年	遊行四世呑海、西富に遊行寺（清浄光寺）を開山する
応永三十三（1426）年	遊行寺炎上する（文安五（1448）年、永正十（1513）年にも炎上）
弘治元（1555）年	後北条氏、藤沢大鋸町に伝馬をおく
永禄四（1561）年	大鋸の森氏、酒屋など新しい商売権を認められる
慶長六（1601）年	藤沢、伝馬宿となり、伝馬三六疋が常置される
慶長十二（1607）年	遊行上人普光、遊行寺を再建

（藤沢市文書館発行。児玉幸多編『藤沢一わがまちのあゆみ』から抜粋）



いろは坂（神奈川県立歴史博物館蔵）



相中留恩記略（藤沢宿）（福原家本）

「藤沢大鋸引」を中心とした職人の町であった藤沢は近世に入ると、東海道の一宿として大きく変貌を遂げた。そこには様々な職業や職種の人々が集まる活気に溢れた宿場町となった。大鋸とは、材木から板をとる「おおがひき」のことで、大鋸地域にはこれを仕事とする職人がいた。（古くから）当地に居住していた森家がそれで、森家は遊行寺が永正10年に消失すると小田原城主直属の職人となり、また遊行寺前に開かれた宿場町を取り締まる役目も兼ねていた。小田原城開城後、藤沢の地は家康の支配下に置かれた。家康は遊行寺に百石の寺領を与えた。永正10年以来廃寺同様になっていた遊行寺は、遊行32代普光のもとで1世紀ぶりに再建された。徳川幕府によって五街道の制度が定まり、藤沢が東海道の宿駅になった。

（藤沢市ブックレット2『藤沢と遊行寺』より、写真と共に抜粋）

辻堂駅開設 100周年

祝賀記念イベント



辻堂駅が大正5（1916）年に地元請願駅として開設してから12月1日(木)で100周年を迎えました。祝賀イベントやパレードをはじめ、11月26日(土)、27日(日)の2日間にわたってさまざまな催しが行われました。

26日

テラスモール湘南・野外舞台

式典やミニライブ開催

タイムカプセル

辻堂駅開設の偉業を後世に伝え、未来への思いをメッセージに託し、辻堂駅北口に設置しました。

記念イベント（抜粋）

27日

テラスモール湘南・野外舞台

ミニライブ開催

秋田市から「浜辺の歌音楽館少年少女合唱団」参加
祝賀パレード

藤沢市消防局音楽隊・ボーイスカウト・
ライオンズクラブ・御神輿など

26日、27日

シークロス公園（神台公園）屋台村

ここでは、選び抜かれた地元飲食店が多数出店しました。またJRの協力により子ども制服撮影会や新幹線のダイヤブロックの展示が行われました。



変わりました

12月1日より、辻堂駅の発車メロディーが「浜辺の歌」になりました。



～浜辺の歌～

作詞家の林古溪^{はやしこけい}が
幼い頃、居住してい
た近くの辻堂海岸
を思い、作詞されま
した。



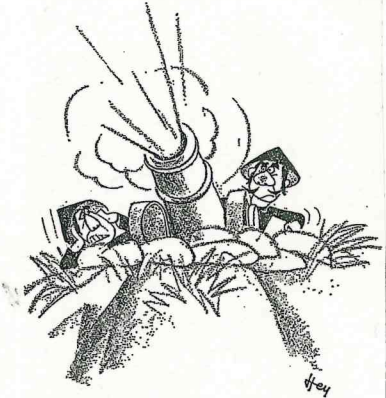
祝賀パレードの様子 写真提供 茅ヶ崎市拠点整備課 坂巻さん

(川田 昌子)

Ⅲ. 辻堂の発展

江戸時代、柳島村から片瀬村の海岸にかけて相州砲術訓練場が設けられており、辻堂駅開設後の大正15年(1926)には横須賀海軍砲術学校辻堂演習場が置かれた。そして、

♪はるか沖から湊を見れば、納屋の白壁陽に映える♪と謡われた「須賀の港に、葦山で鑄造された大砲・砲弾が陸揚げされ、そこから辻堂海岸の鉄砲場まで運んだという。」この道は『鉄砲道』と呼ばれた。



大正初期の辻堂には商店といえるものはほとんどなく、辻堂の住民は、農耕用具や肥料・日常家庭用品の購入は、藤沢の商店街か東海道沿いの四ツ谷に出向いた。駅が開設されて、ようやく駅前通りに商店が出始めた。さらに住宅地や別荘地が次々と開発され、人口も飛躍的に増加した。農産物の搬出や海軍の兵員や物資の搬送が便利になり、辻堂の発展に大きく寄与した。

辻堂駅の設置場所は、当初は辻堂信号所付近となっていた。最終的には現在の場所に決まったが、当時の辻堂集落からすれば、かなり西の端に片寄っていて、その付近は農地と雑木林が多く民家は少なかったという。しかし、今になってみると、現在の場所は、藤沢・茅ヶ崎両駅のちょうど中間にあり、よい選択であったといえよう。

(櫻井豊編『辻堂歴史物語』より)・(イラストは落合久夫著『辻堂のあゆみ』より)

Ⅳ. そして、絆が深まった

去年(平成27)4月から“「浜辺の歌」を発車ベルに”の署名運動が展開され、茅ヶ崎市民にも署名簿が回って来た。それを知った小和田公民館がその主催事業に取り上げた。講座には定員50名に対し、60名以上の参加があった。

辻堂駅100周年の主な事業

- ・駅の発車ベルを「浜辺の歌」に
- ・祝賀パレード実施
- ・まつり広場開催
- ・山車の巡行と神輿の渡御
- ・タイムカプセル設置
- ・記念式典、祝賀会実施

参加者は「八十周年のときパレードに参加した」「生まれ育ったのは茅ヶ崎、駅は辻堂、歴史を知りたくて」「住民の要請でできたことに興味があった」などとアンケートに答えた。さらに「ぜひアクティビティーを止めたい」と期待を寄せる参加者もあった。

辻堂駅は茅ヶ崎市との境目に設置され、両市の市民が利用する。署名運動にも参加し、100周年事業を大いに盛り上げたであろう。市民同志の絆が更に深まった企画であったと思う。

(佐々木 勝治)

夏休み子ども電子工作教室

《モーターで回り続けるジャイロコマを作ろう!》

日 時 平成28年7月27日(水) 14:00～16:00
場 所 小和田公民館 講義室
講 師 ソニーエンジニアリング(株)の皆さん
参加者 小学4年生から中学生 35名



この電子工作教室をご指導下さったソニーエンジニアリング(株)は、社会貢献活動の一環として「ものづくり教室」のほか、いろいろな子育て支援策など、積極的に取り組んでいる会社です。

また、この会社では、社員一人一人が最大限に能力を発揮できるように、いつも仕事と家庭生活の両立を配慮しながら事業を展開しています。仕事と家庭に向き合うための環境を充実させてこそ社員が精神面を含めいろいろなことで充実し、さらに、生き生きと働くことができるからようです。このような社風があることが社会的に評価され2012年5月には神奈川県労働局長より「子育てサポート認定事業主」として表彰されています。

この教室の担当職員のお話によりますと、最近の子どもたちはゲーム機やスマホなど商品化された完成品には大変興味を示すが、ものづくりに対しては興味を示すお子さんが少なくなったそうです。

このようなことから、むかし、人気のあった「地球ゴマ(モーターで回り続けるジャイロコマ)」の制作を、小学4年生から中学生までを対象に、考えられました。

【作業準備】

そこで、公民館の職員さんと、講師の指導者の人たちが中心となり、この電子工作教室に参加した小学4年生～中学生までの35名が、ジャイロこまの組み立て作業をより一層しやすいように、適当な間隔で作業グループを作りました。また、そのグループには、作業机と椅子が並べられ、参加者全員に、ジャイロこまを製作するために必要な工具とさまざまな部品が配られました。

【組み立て作業と、取り組んでいる姿】

まず、ラジオペンチ、ニッパーなどの工具が参加者全員に渡され、つぎに、電池を収納する箱形のボックス、透明な球体、この球体に収納する直流用の小型電気モーター、回転盤、これら部材を繋ぐための表面が被覆された線材（より線）及び基盤が配られました。

さらに、モーターへ電流を供給し、モーター駆動用スイッチの付いた電池ボックス、線材の両端をむくラジオペンチ、ニッパーが手渡されました。このとき、子どもたちは、みんな笑顔で、これから始まるジャイロこまの組み立て作業の方向へ既に心は飛んでいました。

ところが、講師の先生から、ジャイロこまは、ジャイロ効果の原理を応用した科学玩具であり、円盤が高速で回転運動している間は、外部から力が作用しないかぎり、常に回転軸の向きは一定不変に保たれ、そして、回転軸にいったん外力を加えると、その加えた力とは直角（垂直）の方向へ回転軸が移動すること。これがジャイロ効果の原理であること、つまり、傾きの力、コリオリの力、慣性力などの説明がありました。みなさん、ただ黙って聞いているだけで、ほとんどの子どもたちは、専門用語が多かったため、原理など理解できたのか、また、同伴の保護者でも、このジャイロ効果の原理を解ったかなと案じました。

でも、子どもたちには、この心配は必要ありませんでした。その後、組み立て作業はどんどん進みモーターが回り始めたら、喜びの声が聞こえ、顔面には満足感とも言える笑顔があったのです。

（齊藤 祐治）



親子で楽しむ「木工教室」

『キーボックスを作ろう』

日 時 平成28年8月7日（日） 9:00～12:00
場 所 小和田公民館 講義室
講 師 茅ヶ崎寒川建設業人材育成支援センター
参加者 小学生とその保護者、中学生 27組56名



この木工教室を、企画して下さった公民館の職員の皆さんに、まず、お礼と感謝を申し上げます。

講師を探すに当たり、この教室で使う工具（ノコギリ、トンカチ、カッター、定規、ドライバ）とその使い方、材料の調達、子どもたちへの指導、その他作業の安全性など細かいところまでの配慮、並びにその道の専門家を講師として探し出して頂き、子どもたちは安心してキーボックスの組み立て作業をすることができました。

【作業模様】

まず、茅ヶ崎寒川建設業人材育成支援センターの人たちが、広い講義室いっぱいにブルーシート数枚を敷いてくださりました。そして、このシートの上にキーボックス制作に使う材料や工具が置かれ、組み立て作業がしやすいように、適当な広さのベニア板を所定間隔で必要数だけ設置してくださりました。そのあと、参加者に自分の好きな場所に座るよう指示があり、それぞれ好きなところを陣取りました。

このとき、少し時間があつたので、工作教室へ参加したキッカケについて取材しました。

ところが、その中に驚くべき動機のある保護者がいました。これまで、ものづくり体験をしたことがないというのです。しかし、いざ、キーボックスを作り始めたら、作業の進め方、段取りの仕方も良く、お子さんと一緒に作業をどんどん進め、なんなくキーボックスを完成してしまいました。この方にとっては、夏休みに最大の経験をされたことと思います。

その他、家庭でノコギリ、トンカチなどの工具を、まだ、一度もお子さんと一緒に使ったことのない保護者の方もいました。また、完成したキーボックスを、家に持ち帰ってから、茅ヶ崎市の鳥「シジュウカラ」の巣箱に変身させ、庭先に置きたいという親子もいました。たいへん、意義あるものづくり教室でした。



【感想とアンケート】

参加した主な動機として、お父さん、お母さん、友だちと一緒にものづくりの体験をしたかった、夏休みの思い出にしたかった、創意工夫展へ出す作品のヒントにしたかった。また、満足度として、難しいところをおじさんたちが優しく教えてくれたので達成感が得られた、大工さんが親切に指導してくれたので満足のある作品ができた。子どもが普段使ったことのない工具や、家ではあまり使わない道具を使えたのでよかった。ノコギリで木を切るとき真っすぐ切れず曲がってしまった、しかし、指導者のかたが親切丁寧に教えてくれたので素敵なものできたなど。

この他、つぎの機会には、科学の実験、電気工作などやってみたい。との希望もありました。

なお、取材を通して、昨今の家庭教育、義務教育、それに社会教育の新しい面を見ることができました。また、ものづくりに対する保護者の考え方、余暇時間をどのように子どもたちと一緒に過ごしているかなど、日常生活のさまざまな様子がなんとなく把握できました。

【ヒント発掘】

このイベントに参加した子どもの中には、夏休み明けに学校へ提出する「創意工夫と自由研究展」への自由作品に的を絞り、ヒントを得たいと一生懸命に頑張っている姿があり、大変印象的でした。

(齊藤 祐治)

親子で考古学入門

日 時 平成28年8月25日（木）
9:30～12:00
講 師 富永 富士雄氏
(茅ヶ崎市社会教育課文化財保護担当)
参加者 小学3年生から6年生と保護者11組
23名



考古学は今から約1000年前の明治時代に始まったもので、予想以上に新しい学問である。

地球規模で見ると、もっとも寒かったのは、今から約2万年前のころ。現在の海水面が100メートル以上も下がり、中国大陆と陸続きになったときがあった（日本海は湖のような存在）。

湘南台、行谷の遺跡から、大陸に生存するナウマンゾウなどの大型動物の化石が出るのもうなずける。狩人たちもたくさん日本の土地に入ってきた（旧石器時代）。

茅ヶ崎の海は、はるか南まで陸地だから、えぼし岩は海拔100メートルの険しい山だった。

反対に、もっとも暑かったときは6千年前ごろ。氷が溶けて海水は高くなり、現在の赤羽根、甘沼、香川、下寺尾あたりまで海は入り込んでいた。

小出地区は、もともと丘陵だったため、旧石器時代後期（3万年～1万年前）から現代までの人間活動の歴史がすべて埋もれている。

土器・石器が語るもの

縄文土器に見るさまざまな文様は、独特の語りかけを持つ。

まだ文字のない時代。文様をつけることによって識別が容易にできる。その文様は祖父、父、子

と引き継がれるが、彼らは伝統を守りながら、少しずつ新しいものを取り入れてゆく。それにより、時代の推移もわかってくる。

縄文を自分の手で作ってみよう

麻紐と、紙を素材にした粘土が配られた。麻紐を2本寄り合わせ、それを更に折り曲げ、紙粘土に固く押しつける。かすかに一本の筋が現れる。麻糸の寄り合わせ方次第で、違う文様になるのだ。

土器のかけらがいくつも廻ってきた。はるか昔の人の手が、たしかに触れていたものだ。ふだんは、ケースに納まっているそれらを、なんと今日は手にとって眺められる。すばらしい。

配られた資料には、20種類もの違った文様が印刷されている。当時の人たちも、たぶん歓声をあげながら、壺や鉢を抱えていたことだろう。



スライドで市内の遺跡の位置図が写し出された。216もあるとのことで、番号がついている。

ビルが立ち並び、人や車が忙しげに動き廻るこのあたりも、かつては、粗末な衣服をまとった人たちが狩をしたり、火を燃やしたりしていたのだろう。素朴な、おおらかな生活が、ある意味では羨ましいような気がする。

大人たちは興味深かったようで、終了後に質問する人がいた。高学年もかなり興味を持った様子。低学年には少し難しかったかな。でも、本物の土器に直接触れられたのは、貴重な経験だったと思う。

(青木 君子)

歴史散策 横浜三塔物語

～キング・クィーン・ジャックを訪ねて

横浜三塔の愛称は、昭和初期に外国船員がランプのカードに見たてて呼んだことが由来と言われています。

- 「キング」 神奈川県庁本庁舎は、五重塔をイメージさせるスタイルで、昭和初期に流行した帝冠様式のはしりと言われています。（1928 年竣工）
- 「クィーン」 横浜税関本館庁舎は、イスラム寺院風のエキゾチックなドームが特徴です。（1934 年竣工）
- 「ジャック」 横浜市開港記念会館は、東南隅に時計塔、西南隅に八角ドーム、西北隅に角ドームを配しています。（1917 年竣工）

日 時 平成 28 年 9 月 28 日（水）
8：30～15：00

集 合 辻堂西口改札前

講 師 鴨志田 聡氏（元松浪小学校教頭）

コース 辻堂～大船～関内
（関内散策後現地解散）

参加者 17 名

晴天？ 歩くにはちょうど良い天候に恵まれ、ワクワク胸を躍らせて電車に乗り込みました。

関内駅で下車し、今では面影もありませんが、線路の下に川があって「大岡川遺跡」があります。ここを境に「関内」「関外」と言われ、現在の地名となっています。明治 5 年、ここに「港町魚市場」があって、たいそう賑わっていたそうです。

「港魚市場跡」の記念碑と「港魚市場を偲ぶ」記念碑が昭和 56 年 10 月に建立されました。

日本大通りを歩き、次の目的地に向かう途中で紅葉したイチョウの木から独特な香りが漂い、見上げると銀杏が鈴なりになっていました。秋を感じながら神奈川県庁本庁舎に到着。



キングの神奈川県庁本庁舎では、屋上に上がってみました。360 度ぐりと展望できます。1 階に下りながら見学すると、その装飾は見事なものでした。宝相華^{ほうそうげ}が咲くエントランス、玄関ホールは、アール・デコ装飾と和風が調和し、荘厳さを感じました（宝相華とは、極楽浄土に咲く幻の花といわれています）。

クィーンの横浜税関本館庁舎、現在の関庁舎は横浜税関誕生から三代目となります。関税と呼称が統一される前、運上所の時代から 150 余年もの間、わが国の貿易を支え、経済の健全な発展と安全・安心な国民生活の実現に寄与しています。

ジャックの横浜市開港記念会館の館内には、開港当時を描いた、「呉越同船・鳳凰・箱根越え・黒船ポーハタン号」などのステンドグラスが飾られています。

その後、昼食をはさみ散策に出ました。横浜生まれ・横浜育ちの S さん、「横浜で知らないことはないと思っていたが、今日の話は知らないことばかりだった」と言わせるほど、講師の話は面白く、深いものでした。ここに紹介した以外にも歴史的な建造物の説明に参加者一同、うなずくばかりです。是非皆様も散策してみたいのではないでしょうか。新たな発見があるかもしれません。

散策してみると、とても素敵な街に思えました。それでも時代の流れには逆らえず、消えていくものもあります。古き良き時代に思いをはせながら、ゆっくりと時の流れを感じる一日でした。

（川田 昌子）

「オカリナ・ミッキー」



講師 笠原 美紀子氏

平成28年9月27日、まだ暑さが残るこの日、練習があるとのことで取材にお邪魔しました。

サークルとして活動を始めたきっかけは、平成20年9月に公民館主催事業（＊）として行われた「オカリナ教室」に参加したこと。その事業が終了し、「もう少し続けたい」「サークルにしては」という声上がり、公民館と講師の方に交渉したところ、快く引き受けていただきました。

サークル名の由来は楽器の「オカリナ」と講師の名前「みきこ」からとり、「オカリナ・ミッキー」と付けたそうです。

ここでちょっと講師の紹介をしたいと思います。元々はピアノ講師。他の公民館でオカリナを教えてくれる人を探していて、講師を引き受けました。講師自身もオカリナは初めてで猛勉強をしました。その腕前を見込まれ、小和田公民館からも依頼があり現在につながっているのです。

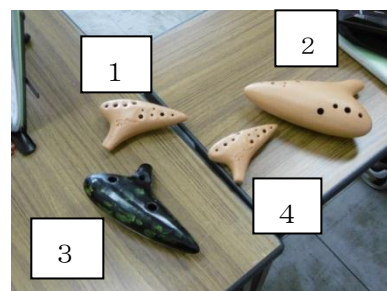
さて、皆様は「オカリナ」という楽器をご存知でしょうか。「オカリナ」とはイタリア語で「小さなガチョウ」という意味です。オカリナの歴史はとても古く、マヤ文明のころが発祥とされています。中国にも似たような楽器があります。現在は陶器でできているものが主流です。



現在の活動は、毎月第1、第3の火曜日14時から16時の2時間、練習をしています。そのほかに、外部ボランティアとして、施設（ディサービス）や自治会の催し物などで演奏しています。

春に総会を開き、会長などの役職を決めます。現在の会長「伊藤寛さん」は3代目になります。オカリナを始めたきっかけは、冒頭の公民館の主催事業「オカリナ教室」に参加したこと。始めてみると、とても情熱的で且つ簡単で、こんなに魅力的な楽器はほかにはない、と思うほどほれ込み、今では4種類ものオカリナを持っています。というのも、オカリナは音域が1.5オクターブ程度と音域が狭いので、楽曲によってオカリナを変える必要があるからです。

- 1 アルトC調
- 2 バスC調
- 3 テノールF調
- 4 ソプラノF調



練習をしていた会員にお聞きしました。

「一人だと音も限られてしまうけど、大勢で吹くことで、3部にわかれたりして曲ができていくのが楽しい」「先生が一番大変だと思います。だんだん高度な練習になってきてますし」。そんな生徒さんの話を聞き、「みなさん、熱心なんですよ。私もとても楽しいです」と、笠原先生も微笑んでおられました。本当に楽しそうな練習風景を見てみると、私もなんだかうれしくなってきました。

「オカリナ・ミッキー」は、いつでも皆様のお越しをお待ちしています。一緒に奏でてみませんか。

（＊）「オカリナ教室」公民館主催事業（全5回開催）

平成20年9月2日、9日、30日、10月7日、21日
音楽を通じて仲間づくりや地域の交流を図ることを目的に開催されました。

参加者 20人 （延べ82人）

（川田 昌子）

公運審から発信

公民館運営審議会（略称：公運審）は、公民館館長の求めに応じ、事業の企画・実施などについて調査・検討を行い、住民の意見を公民館の運営に適切に反映させることが主な役割です。

1期2年の任期となっており、現在の委員は次の7名です。

会長	川村 恵美 (松浪地区社会福祉協議会)
副会長	佐藤 敦恵 (松浪小学校区青少年育成推進協議会)
委員	中井 汎 (松浪地区まちぢから協議会) 高田 陽子 (小和田公民館利用者懇談会) 石井 典子 (茅ヶ崎市食生活改善推進団体) 菊池 路子 (茅ヶ崎私立幼稚園協会) 國分 一哉 (茅ヶ崎市小学校長会)

※任期：平成28年4月1日～30年3月31日
※（ ）内は選出母体

公運審委員としての抱負と公民館に望むこと

公運審には、幅広い立場から意見を寄せてもらえるよう、学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上に関する活動をされている団体、学識経験者などから委員が選出されています。

今回、委員の皆さんに、公運審委員としての抱負と公民館に望むことをお伺いいたしました。

○事業の多さと幅の広さにとても驚いています。地域の皆様のニーズに合わせ企画された事業は、楽しく為になるものばかりです。誰もが立ち寄りやすく居心地の良い小和田公民館が、いつまでも続いて欲しいと思います。（川村 恵美）

○松浪地区に越してきてから約20年。子どもが小学生になってから、子ども会、PTAや青推協と公民館を利用して来ました。立場は色々ですが、これからも地域の子どもたちと共に公民館にかかわりたいと思います。（佐藤 敦恵）

○公民館は地域の社会教育、生涯学習の拠点として役割を果たしているが、さらに地域社会と一体化した活動による、地域力を高める「要」としての役割を果たすことで地域への貢献ができるのではないだろうか。（中井 汎）

○小学校のPTA活動に公民館を利用させていただいてから30年。これからは委員として、地域の皆様に喜んでいただける催しを、公民館と共に考えていけたらと思います。（高田 陽子）

○高齢者から赤ちゃんまで、より多くの方々が集い、世代を超えて交流しながら豊かな時間を過ごしていただける場となり、地域力が向上することを願っております。（石井 典子）

○小和田公民館を歴代のスタッフの方々が繋げて下さったことに感謝いたします。私自身、あまり公民館活動に関心を向けていなかったことを反省しました。今後は地域住民の心のオアシスとしての役割を果たす公民館として、どのようなお手伝いができるか考え、微力ながらお役にたちたいと思います。（菊池 路子）

○公民館で開催される多くの事業、今まではつい小学生が対象のものに目がいていました。しかし、公運審の委員となり事業を見ると、子どもから高齢者まで生涯学習の場として、公民館が運営されていると感じました。これからも地域の方々が集える公民館であってほしいです。（國分 一哉）



前列左より
石井委員
菊池委員
川村委員
高田委員

後列左より
國分委員
中井委員
佐藤委員

（神田 一明）

表紙の写真

公民館主催事業

小和田公民館では、毎年数多くの主催事業を行っています。この写真は事業の一コマです。

公民館のぞきみ隊

小和田公民館には、200を超える団体・サークルの登録があります。どの団体・サークルも楽しそうに活動しています。今回はその一部を、公民館だよりの中で紹介いたしました。

職員紹介

公民館の職員は、正規職員1名・再任用職員2名と社会教育嘱託員4名の計7名です。地域・社会的要請事業を始めとして地域のみなさまに様々な学習機会を提供しています。利用者のみなさまが楽しく、気軽に利用していただけるよう、公民館運営に努めます。どうぞよろしくお願いします。



前列左から ①高橋敏夫 ②山田佳世恵（館長） ③神田一明
後列左から ④加藤真由美 ⑤染谷直子 ⑥光井澄恵 ⑦四家之和之
②は正規職員、①③は再任用職員、④⑤⑥⑦は社会教育嘱託員です。

編集後記

- ◎ メンバーに入れていただき、三年になります。今年の担当は「親子で考古学入門」。現代を遡ること数千年前のお話に、私自身大いに楽しんだひとときでした。（青木 君子）
- ◎ 「発車ベルの変更は100周年事業の柱」だということで、平成28年12月1日早朝、1番列車の発車メロディーを聴きに辻堂駅に行ってみました。上りでは“あした浜辺をさまよえば”のメロディーが流れ、下りのメロディーは“風の音よ、雲のさまよ”でした。また、未来の辻堂に伝えたいことを「タイムカプセル」に託すとか。20年後、50年後、100年後の市民たちはどんな気持ちでそれらを開いて見るのだろうか。（佐々木 勝治）
- ◎ この度、担当した2件の取材により、現在、松浪地区の青少年健全育成事業が、どのような手法でなされているのか、この企画を担当したみなさん、参加した保護者のみなさん及びお子さんたちのお話などから、その様子が把握できました。また、この事業の課題について、公民館のみなさんが将来を見据え、真剣に取り組み、その対策まで考慮し輝かしい青少年健全育成の未来像を描きながら推進している姿をみて、有り難く感じました。（齊藤 祐治）
- ◎ 今回も、「公民館のぞきみ隊」の取材で、すてきな団体に出会いました。公民館にはたくさんの団体があり、皆様活発に活動されています。公民館だよりを楽しく読んでいただけるように、と願いながら記事を書きました。（川田 昌子）
- ◎ 平成28年は「辻堂駅開設100周年」にあたり、小和田公民館でも主催事業に採りあげました。辻堂駅が100年前の市民の請願により開業したことを知り、日頃、利用させてもらい恩恵を受けていることに対し、当時の人々に感謝の気持ちを抱きました。（神田 一明）